

令和5年9月
鳥栖市教育委員会
定例会議事録

鳥栖市教育委員会

鳥栖市教育委員会 議事要旨

1 会 議 名

教育委員会 9 月定例会

2 開 催 日 時

令和 5 年 9 月 13 日（水） 8 時 30 分開会 9 時 29 分閉会

3 開 催 場 所

鳥栖市役所 3 階第 3 委員会室

4 会 議 の 公 開

公開

5 出 席 委 員

佐々木教育長、古澤教育長職務代理者(委員)、戸田委員、森田委員、大石委員

6 出席事務局職員

姉川教育部長、牛嶋教育次長兼生涯学習課長、佐藤教育総務課長、古賀学校教育課長、立石学校給食課長兼学校給食センター所長、井手学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事、久家生涯学習課参事、豊増生涯学習課参事兼放課後児童クラブ支援室長兼放課後児童クラブ支援係長、辻教育総務課長補佐兼教育支援係長、中牟田学校給食課長補佐兼学校給食センター係長、城島教育総務課総務係長、古賀学校教育課インクルーシブ教育推進係長、守田学校教育課教育指導係長兼指導主事

7 傍 聴

1 人

8 経 過 報 告

8 月定例会以降の経過報告

9 議 事 録 承 認

8 月定例会の議事録承認

【承認】

10 議案

議案第18号 教育財産の用途廃止について

議案第19号 令和4年度鳥栖市教育委員会事務の点検評価について

11 協議報告事項

佐賀県小・中学校学習状況調査及び令和5年度全国学力・学習状況調査について

12 今後の予定等

教育委員会関連の主な行事について報告

13 次回会議予定

教育委員会10月定例会 令和5年10月11日（水）10時30分から

○佐々木教育長

ただいまから、教育委員会9月定例会を始めたいと思います。それでは、経過報告について事務局より説明をお願いいたします。

○佐藤教育総務課長

(資料に基づき説明)

○佐々木教育長

経過報告について何かご質問等ありましたらお願いします。

○古澤委員

先ほど、ご説明ありました古賀市への行政視察について、プールの民間委託の内容をまとめられていると思いますので、可能であればご提供いただきたいです。

○佐藤教育総務課長

まとめて提出させていただきたいと思います。

○戸田委員

先ほどのプールの民間委託について、古賀市の場合、移動手段はどのように運用されているのでしょうか。

○佐藤教育総務課長

移動手段については、受託業者が手配する大型貸切りバスを利用しているということでした。1番遠い学校で25分程度の時間を要しているということで、全体で3コマ分の時間を使い、2コマ分は水泳事業、残り1コマ分は移動時間という内容で実施されているということでした。

○佐々木教育長

他にご質問等ありませんでしょうか。無いようでしたら、次に移ります。議事録承認についてですが、8月の定例会の議事録を別冊でまとめていただいておりますので、何かありましたら事務局をお願いしたいと思います。それでは議案に入ります。議案第18号教育財産の用途廃止についてを議題といたします。事務局の説明をお願いします。

○佐藤教育総務課長

(資料に基づき説明)

○佐々木教育長

説明が終わりましたが、何かご質問等ありますでしょうか。

○戸田委員

今回の件について、これからも、空き教室などは出てくると思います。今回、別の建屋だったため、このような手続をされると思うのですが、仮に同じ建屋の中で空き教室、余裕教室を別の用途に利用するというのは可能なのでしょうか。可能であれば、その際の手続きというのは、今回と全く異なるものなのか教えていただけますでしょうか。

○佐藤教育総務課長

現在、特定の小学校では図工室などをなかよし会の施設として、貸し出しを実施しております。貸し出しをする場合は覚書などの文書を交わしますので、今回のような所管替えは基本的には行いません。空き教室等がある場合は、特段の事情がない限りは貸し出しを継続すると思うのですが、学校側が諸事情で使用を再開する場合は、貸し出しを中止する形になると思います。

○佐々木教育長

他にご質問等ありませんでしょうか。それでは、議案第18号教育財産の用途廃止について原案のとおり、ご承認いただけますでしょうか。

○各委員

はい。

○佐々木教育長

ありがとうございます。議案第18号教育財産の用途廃止については、原案のとおり決しました。事務局は、教育財産の用途廃止の手続等を行ってください。次に、議案第19号令和4年度鳥栖市教育委員会事務の点検評価について議題といたします。事務局の説明をお願いいたします。

○佐藤教育総務課長

(資料に基づき説明)

○佐々木教育長

委員の皆様から何かご質問等ありますでしょうか。内容ごとにご指摘をいただいておりますが、事務局のほうからも何か補足説明はないでしょうか。給食面では健やかな体ということで、地産地消の検討についてご指摘ありましたが、いかがでしょうか。

○立石学校給食課長兼学校給食センター所長

地産地消と給食についてのご指摘ですが、学校に状況を聞きますと学校の畑で野菜などをつくっていると聞いております。可能であれば、学校で作った野菜などが相応の量を確保できれば給食に使用できるのではないかと思います。学校給食が自校式だった時は、そういった取組をしていたというお話を耳にしたことがあります。過去にどういった取組をしているのか、学校菜園で実際にどれくらいの量が採れているのかなどを調査した上で、実施する必要があると思っております。

○古澤委員

量の確保というのは、なかなか難しいかと思いますが、学校菜園は多くの学校で実施されていますので、収穫の喜びなどを味わいながら、学校で消費する仕組みはあっても良いかと思っております。

○佐々木教育長

学年単位、学級単位で収穫したものを食するという事は、比較的实施されていると思うのですが、給食の食材として使用するとなると、難しい部分があるかと思えます。給食センターは、当初から地産地消に向けて積極的に取り組んでいこうと、食材納入に配慮していたのですが、なかなか難しい部分があったところです。他にご質問等ないでしょうか。

○古澤委員

勝尾城関係で、VRを作成してアピールするのも一つの方法であるとお話がいただいております。このことについて、進捗具合がどのくらいか教えてください。

○牛嶋教育次長兼生涯学習課長

外部評価員からVRの活用についてご指摘いただいております。現在のところ、VRを活用した映像制作について、具体的な検討などを行っておりませんが、今後、サンメッセ内の文化情報発信施設にてデジタルコンテンツなどを充実させていきたいと思っております。しかし、勝尾城の施設整備が進んでいない状況の中で、こういった最先端の映像技術をどう活用していくのか、今後、検討しながらP

Rに努めていく必要があるかと考えています。

○古澤委員

昨年度の定例会で、生涯学習課が作成したものではなかったと思いますが、映像化したものを拝見させていただき、素晴らしいものが出来つつあると期待していましたので、今後、頑張っていたいただければと思います。

○古賀学校教育課長

学校教育課としましては、次第8ページから9ページにかけて様々なご指摘やアイデアをいただいております。その中で、「教育環境」に記載しています教員不足について、様々なご意見やアイデアをいただいたところでございます。現在、教員不足に対応するため、非常勤講師を依頼するなどして対応しているのですが、子どもたちへの教育はもちろんなのですが、先生方の勤務時間などにも随分と影響を及ぼしているところでございます。そういった中で、例えば、大学生を非常勤講師や、部活動の指導員として活用出来ないかなどの地域移行型に対するご意見等もいただいております。これまで鳥栖市内の実績としましては、大学院生の方に支障のない範囲で非常勤講師をお願いした経緯もございます。そういったところを振り返りながら、今後も検討していく必要があると考えております。学力向上の項目につきましては、教科「日本語」の取り組みについて随分と評価をいただいたところでございます。外部評価委員である塩田先生につきましては、一度授業を見学してみたいということで、授業参観をしていただきました。子どもたちのコミュニケーション力に課題が見受けられるので、今後、教科「日本語」を軸としながら、引き続き、取り組んでいただきたいというご意見でした。教科「日本語」の充実につきましては、鳥栖市内に新しく来られている先生方を対象に研修会を実施し、具体例を示しながらご理解いただいているところでございます。また、初任者につきましても同様に取り組んでおります。今後も充実を図りながら取り組んでいきたいと考えているところです。

○佐々木教育長

教科「日本語」については、今後、より良いものに成長させなければならないと思っています。英語教育については、県の教育長会議でも話題になりまして、佐賀県は全国的にも英語が低いということで、いかにして英語教育を進めるかというのが課題となっており、本市においても同様の傾向がありますので、対応しなければならない大きな課題と思っています。9ページに記載しています内容についても、学校教育課長から先ほど話がありましたが、熊本市では大学生や大学院生を活用した学習支援を実際に採用されていますので、このことについて伊藤学長のほうにもご意見を伺いたいと思っています。こういったご助言を基に、今後、大学との連携を取ることが出来れば、学習支援もしくは、部活動の外部指導などを進めていけるのではないかと考えております。今年度の夏休み期間中のなかよし会に、弘堂国際学園の学生が入っていただきました。入っていただいた学生は比較的楽しんでやっただき、子どもたちも楽しんで交流していたと報告を受けております。後日、弘堂国際学園の理事長から「今後も積極的にこのような活動を進めていき、外国人に対する理解を深めてもらいたい。」と言われましたので、今後も可能な限り広げて進めていきたいと思ったところでした。ほかにないでしょうか。それでは、議案第19号令和4年度鳥栖市教育委員会事務の点検評価について、原案のとおりご承認いただけますでしょうか。

○各委員

はい。

○佐々木教育長

ありがとうございます。令和4年度鳥栖市教育委員会事務の点検評価について原案のとおり承認されました。事務局は、令和4年度鳥栖市教育委員会事務局点検評価報告書の市議会への報告と、市ホームページの公表を行ってください。それでは、協議報告事項に入ります。佐賀県小中学校学習状況調査及び令和5年度全国学力学習状況調査について事務局からの報告をお願いします。

○井手学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事

(資料に基づき説明)

○佐々木教育長

事務局からの説明が終わりましたが、何かご質問ご意見等ありますでしょうか。

○大石委員

中学生が若干下回っているというお話が出ているのですが、中学生ということなので、スマートフォンなどに気持ちが移ってしまっている気がするのですが、こういった問題に取り組むためには、現在の学校の先生方の業務量が多いのではないかと思います。そういった学校現場の状況を鑑みると、保護者による家庭教育も重要な要素なのではないかと感じます。私も保護者の1人ですので、学校とお話をしているところはたくさんなんですけれども、教育委員会もしくは学校から家庭教育の重要性について情報を発信することも大事だと思いますが、保護者にどのくらい響いてくれるのか、難しい部分もあると思います。そういった難しい課題に取り組むためにも、先生方の負担を下げることに力を注いでいけたらと考えているところです。今回の結果を受けて、例えば、英語の数値が悪いから次から頑張っていこうと、日頃の業務に追われている先生方がそのように気持ちを切り替えて取り組めるのかと言われたら、正直、難しいのではないのかと思います。少しずつでもいいので、いま1度、先生方が持っている業務内容を見直していただいて、必要なもの保留するものの振り分けと抜本的な対策を検討していく必要があるかと思います。

○佐々木教育長

ご指摘いただいた働き方改革については、これからも取り組まなければならないものだと思っております。ただ、学びの在り方の本質的な部分が、今変わりつつあると思います。今までは一斉授業で、子ども達が黒板のほうを一斉に向き、一方向的な学び方をするのではなく、子ども達がそれぞれ自分のテーマを持って、学んでいます、その学びに向かう意欲や必要性をしっかりと育てていくように進めていくことで、問題に対して自分自身で対応する力というのを身に付ける方向に動いてきています。暗記などでしっかり知識を蓄えて、それを活かしていくような学びではなく、新しい問題に対してどのように自分で解決していくかという流れに変わってきているので、子どもたちが学びの良さを感じさせる授業というのを進めていかなければならないと思っています。私が教壇に立っていた際は、総合的な学習に取り組んでいました。自分たちで課題をしっかり発見し、時には子ども達同士で考えて学んでいくことで、子ども達は一生懸命目標に向かって取り組んでいきます。そういった学びの中で得た知識や技術などは自然と身に付いてくるので、それは国語や算数・数学、英語であっても共通して言えることだと思います。その必要性をいかに子ども達に感じさせる学びを、これから実践していかなければならないと感じてい

ます。英語がなかなか伸びないことについて、昨年度まで事務局に在籍していた日吉と話をしたんですけれども、やはり、子どもたちが英語で話す必要性をなかなか感じ得ないところに壁があるのではないかと思います。身近に外国人がいない環境では必要性を感じなかったり、将来的に必要だと教えても、なかなか難しいのだと思います。先日、市議会でも「短期留学やホームステイを推進してみては？」というご意見をいただいたのですが、特定の人物にしか効果がないので、全ての子どもたちに機会を与えるような取り組みをしていければと考えております。現在、授業1コマを全て英語で話すような内容を実践していますので、その中で子ども達自身が英語の必要性について感じてくれればと思います。

○戸田委員

教育長がお話された内容で、子どもたち自身で自由に課題を設定して、何か問題解決していけるように教えていくというのは、なかなか難しいと思います。恐らく、ある一定程度知識を入れないと、自由な発想というのも出て来ないのではないかと思います。これらは小学生や大学生でも共通する課題だと考えています。僕自身も悩んでいまして、答えはないのですが、年齢が小さい頃はある程度知識を入れるような勉強方法が必要なのではないかと直感的に思います。私は小学生の子供がいるのですが、自由研究や自学に取り組むとき、いつも悩んでいて「どうすればいいのかが分からない」と言っています。そういう状態に対して先生方はどう指導すればよいのか、確固たるものについて我々自身が持ち得てないので、難しい問題だと感じます。

○佐々木教育長

戸田委員のご指摘のとおり、基礎的な知識や技能というのはとても大事で、それらをどのように活かしていき、また新しい知識や技能を獲得していく学習が必要になってくると思います。これからの学びは、状況に応じて一斉学習や個別学習に学習形態を切り替えながら進めていかなければならないかと思っております。また、書くことについて小学校と中学校で伸び悩んでいる現状があることについて、評価員からご指摘があったのですが、物事を批判的に捉えるのではなく、根拠を持って物事を見ていく倫理的思考を学びの中で身に付けて、それを文章に表現していく学習が必要かと思っております。教師側も授業の中で何を大事にしていくかを意識していただきたいと思っております。単純に教科書を流していくような授業では、必要な力がなかなか子ども達に身に付かないと思っております。現在、この課題については各学校のほうで考察をしていただき、取り組みを進めていただきたいと思っております。

○古澤委員

学習状況調査について、全国や県との比較で資料がまとめられていますけど、鳥栖市内の児童生徒の現状を見る上では必要かと思っておりますが、例えば今年度の5年生と6年生を基準に、全国と比較して低い数値だが、昨年度と比較すると上昇しているというケースもあると思っております。今年度の数値だけでなく、過去からの推移も集計し、比較することで子ども達への判断材料が増えることで、今後のためになるのではないかと思います。

○井手学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事

本日は、経年の変化を提示出来ませんでしたので、また機会を持ちまして、昨年度や一昨年度との比較を検討したいと思っております。また、先ほど報告していませんでしたが、毎年、小学校から国立や県立の中学校に進学する子どもたちの割合

が全体の約15%であり、上位のほうから流出している事実については、ご留意いただければと思います。

○古賀学校教育課長

今年度はこのように説明させていただきましたが、経年比較につきましては、これまで小学校4年生5年生を対象に県独自の調査をしているのですが、今年度の調査から全国比較が出来るようになっている報告を受けております。今後につきましては、比較資料として見やすくなってくるものが出てくるのではないかと期待しているところです。

○大石委員

様々なご意見を聞いて、勉強になりました。児童生徒たちには自己肯定感を持ってもらって、新たなチャレンジをしてもらいたいという気持ちがあります。それは、先生達も同様に、自己肯定感を持っていただき、自発的な意見や取り組みをたくさんしていただきたい気持ちがありますので、先生達が抱えている仕事の量などをしっかりと見直していただき、本当に必要なもの、保留していいもの見極めていただき、子どもたち同様、先生達も伸び伸びと、自分の良さを伸ばしていける学校づくりが出来ていければ理想的かと思っております。その辺の検討も進めていただければ幸いに思います。

○佐々木教育長

先ほどの意見等も踏まえながら、今後、学校教育に関する取り組みを進めていただきたいと思っております。質問がないようでしたら、今後の予定について事務局より説明をお願いします。

○佐藤教育総務課長

(資料に基づき説明)

○佐々木教育長

今後の予定について何か御質問等ありますでしょうか。総合教育会議については、テーマを決めて、市長を交えた協議になるかと思っております。教育委員会事務局で、それぞれ課題がたくさんありますので、数ある課題の中からテーマを絞って進められればと思います。また、この定例教育委員会についても教育委員の皆様と協議をしていただく大切な場だと思っておりますので、厳しいご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。今後ともよろしくをお願いします。他に質問がなければ、これをもちまして、鳥栖市教育委員会9月定例会を終了いたします。お疲れさまでした。